



学校法人 いのせ学園
サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園
〒329-0617 栃木県河内郡上三川町上落生2111-1
Tel-0285-56-7222 Fax-0285-56-0360
<https://www.sunnyside.yashio.ed.jp>



入園

の

ご案内

学校法人 いのせ学園

サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園

Sunnyside International Sunnyside International



やしお幼稚園の設立は1977年です。

設立当初から大切にしていることは、自然との触れ合いです。

当園には森があり小川があります。動物がいます。子どもが成長し大人が成長する。豊かな自然がその舞台です。そこに込められているのは、やがて社会に出ていく子どもたちに「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」ための土台をしっかり身につけてほしいという想いです。

もうひとつ大切にしていることに「しつけ」があります。

あいさつ、返事、靴をそろえる、姿勢を正すなど基本的な生活習慣が一人一人の子どもに身につくよう導いています。

その上で21世紀に生きる子どもたちは世界のなかで力を発揮しなければなりません。日本語でも英語でも自分を表現できる能力を身につけ、コミュニケーションを図ることはあたりまえのことになります。

子どもは驚異的な能力ですばやく言葉を習得し、完ぺきなアクセントや表現を身につけてしまいます。

サニーサイドインターナショナル・YASHIO 幼稚園では、英語を自由自在に使えることが不可欠となった現実を踏まえて、子どもたちへの英語教育を行っています。

日本人の心を大切にす真の国際人が、やしおの森から巣立ってくれることを期待しています。

サニーサイドインターナショナル・YASHIO 幼稚園

園長 古本裕一



What is Sunnyside Program?

サニーサイドプログラムって？



サニーサイドプログラムは・・・平成13年度より岐阜市の幼稚園で教育改革模範モデル事業として発足し、その教育成果が大きく評価されている日本人教諭と外国人教諭によるチーム保育形式の幼稚園教育で、いのせ学園では平成18年度に開設いたしました。外国人スタッフのみ、また英語のみで保育を行う、「インターナショナルスクール」と呼ばれる施設と違い、文部科学省の指定する日本の「幼稚園教育要領」を基本に教育を行っています。

● 真の「国際人」を育成したい

「国際化時代」と良く耳にしますが、それでは「国際人」って何だろう？と考える時、それは「英語が話せる＝国際人」ではないと私たちは思います。国際社会において魅力的な人材とは、自国の文化を知り、自国の国民性のすばらしさを兼ね備えた上で、コミュニケーションをとることが出来る社会人ではないでしょうか。サニーサイドでは、教育の目的が「英語を話せるようになること」ではなく、あくまで幼児の育ちの環境として決して偏りのない、バランスのとれた適切な環境であるということに常に重要視しています。

● 日本人としての育ちを大切に

サニーサイドの最大の特徴はその教育の基本を日本の幼児教育にしているという点です。基本的な生活習慣に始まり、相手を思いやる優しい気持ち、お友達と仲良く関わることの出来る力やどんな遊びにも積極的に参加できる意欲作り、また、日本の昔話や童謡、おもちゃなどの伝統行事など、幼稚園生活の中で子どもに身に付けてほしいこと、体験してほしいことはたくさんあります。真の国際人を育てていくためには、日本人としての育ちや日本の文化にふれる体験も大変重要なことと私たちは考え、保育の中にそれらを出来るだけ多く取り入れ、外国人の先生も一緒にそれを体験しています。詳しくは年間の行事内容をご参照下さい。

● 生活の中で自然に身に付く英語

挨拶に始まり、「Go get your bag! カバンをロッカーから出しましょう」「Let's sing a song! 歌をうたいましょう」「Who is not here today? 今日のお休みは誰ですか?」など常に日常生活の中で必要な動きや物事に合わせて英語を耳から入れる為、大人がするような「意味を頭の中で訳す」というプロセスをサニーサイドの子どもたちは持っていません。それぞれの場面や事物をイラストやフラッシュカードで見せながら教える必要はなく、英語を母国語とする子どもが身につけていくのと同じ方法で英語を理解していきます。

● 日本人教諭は「日本語」のみ 外国人教諭は「英語」のみ

1990年代には脳科学の分野が革新的な発展をとげました。その中でいわゆる「初期バイリンガル脳」の構造についてや、その育成に必要な育ちの環境についても多くの研究がなされましたが、その結果、バイリンガルな子どもが育ちやすいのは父親と母親がそれぞれに違う言語を話す場合だということがわかるようになりました。つまり、例えば母親だけが日本語と英語をおりませながら子どもに話しかけてもあまり効果が期待できないという研究結果です。私たちはそれらを踏まえ、日本人教諭は日本語のみで、外国人教諭は英語のみで子どもと関わることを基本にしています。

一年間の行事

4月 入園式
始業式
家庭訪問

5月 いちご狩り
内科検診
歯科検診
保育参観

6月 プール・川開き
親子遠足
保育参観

7月 終業式
お泊まり保育
(年長・年中)
小学生との交流
納涼祭

8月 夏期保育

9月 2学期始業式
運動会

10月 いもほり
りんご狩り
お泊まり保育(年少)
ハロウィーンパーティー

11月 お年寄りとのふれあい
祝劇会
保育参観

12月 おもちつき
開園記念日のお祝い
クリスマス会
2学期終業式

1月 3学期始業式

2月 豆まき
学習発表会

3月 お別れ遠足
お別れ会
卒業式
3学期終業式

School Uniform
サニーサイドの制服

動きやすくてちょっとおしゃれな
制服は子どもたちも大好きです。



その他の特色教育

自然体験教育

自然の森・畑・川

サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園には自然がいっぱい、
春夏秋冬でたくさんの顔を見せてくれます。

春 新緑の中での発見っこ。
こちよい園が子どもたちを包み込みます。

夏 どんなに暑くても自然の森に入ればそこは天然クーラー。
そして全身で自然を感じる川あそび。
裸足って気持ちいいね!

秋 木の葉をまつめておまますこと。
ステキなクッキーができるかな?

冬 落ち葉をまつめておふとんあそび。
ふかふか気持ちいいね!



また園外においては、れんげ畑に出かけて寝転んだり、
ネックレスを作ったり、自然のおもしろさを肌で感じています。

秋のおいもほりに向けては、
年中生が春にいもの苗植えを行い、
年少生、年長生はりんご狩りに出かけ
ます。植物の成長、命の大切さを
体験しています。



自立する教育

自分のことは自分でやる!

上ばき洗い

「身近なことで何か出来ること?」
年長生においては自分の上ばき洗いを行っています。
自分の上ばきを洗うことで、物を大切にできる気持ちや、
親へ感謝する気持ちを培っています。
「自分のことは自分で」
上ばき洗いを通して「自分でやれることはやってみよう」
という自立心を養っていきます。



お当番活動

給食当番、木製園児教室のお手伝い、そして運動会。一人一人が役割を持つことで
責任を持って取り組んでいます。やり遂げた後の子どもたちは、みんな自信に満ち
あふれ「キラキラ」と輝いています。



保護者インタビュー



久保いつきくん
ゆうせいくんとお母さん

既に3人の子どもが卒業していますが、サニーサイドで過ごした日々は宝物です。サニーサイドは日常生活を外国人の先生と過ごすことができるところが魅力です。幼児期は強い好奇心と感受性で柔軟に英語環境を受け入れることができるので、楽しみながら英語を吸収すると共に多様性への理解も深めることができます。卒業後も培った経験があるので英語学習がスムーズに進むと感じました。また、子ども達が経験を通して成長ができるよう沢山のイベントがあるのも魅力です。学習発表会は子どもの成長をとても感じられるので涙なしでは見られません。チャレンジ精神を大切にしている愛情ある先生方の指導は、子ども達の自信に繋がるのだと感じました。今後も2人の成長が楽しみです。



小林みやくんとお母さん

私自身、英語が苦手なので子ども達には将来の事も考え、英語が好きになって欲しいと思い入園を決めました。外国人の先生はとてもフレンドリーで日常生活や遊びを通して英語を教えてくださいました。そのお陰か、入園して間もない次男ですらリアクションや簡単な英単語を話してくれて、昨年卒業した兄と2人で盛り上げていたりもします。そしてサニーサイドには様々な国の先生がいるので自然と子ども達は多様性を受け入れています。また、基本的な生活習慣を身に付ける事も大切にしている、元気な挨拶、言われなくても揃える履物や自分で着て持ち帰ってきた服、何気ない小さな変化に驚かされています。英語はもちろん、人として大切な事もしっかりと教えて下さるので次男のこれからがとても楽しみです。

吉村そういちろうくんとお母さん



海外から本帰国し、息子にどのような教育を与えるべきかと考えたところ、覚え始めた英語を忘れてほしくはないし、日本人として日本語や日本文化も学んでほしい。そんな私たちの我儘な希望を叶えてくれたのがサニーサイドでした。園には自然豊かな森や季節を通して様々な行事があり、息子は園児一人一人に対し真剣にそして愛情深く見守ってくださる先生が大好きで、習った歌や体操をよく家で披露してくれます。日本の情勢が大きく変わる今、今後どんな未来になっても、彼が彼らしく、強く逞しく、そして色々な文化や背景を持つ人を尊重し、対等に意見を交わすことができる人間になってほしいと願っています。



佐々木ゆうがくんとお母さん

入園を決めたきっかけは「楽しそう」でした。私は英語が苦手です。しかし英語は国際的なコミュニケーション手段として重要視されています。子供には幼少期から英語に触れ、自分の生活の中で当たり前ものになって欲しいという思いもありました。入園後は身近にあるものを英語で伝えたり、歌を歌ったり、と楽しく過ごしています。様々な文化や価値観を受け入れる力を身に付け、柔軟な思考を持てるようになってほしいです。先生方は子供達としっかりと向き合い、また私たちにも優しく接して下さいます。英語だけではなく礼儀や生活習慣もしっかり学んでいるのだと日々感じています。毎日出来ることが増え、成長している姿を見てこの幼稚園に決めて良かったと思っています。子供と一緒に私も成長していきたいです。

古山じゅりちゃんとお母さん



サニーサイドの1番の魅力は、毎日ネイティブな英語に触れられることです。身近に異文化や多様性が溢れており、子ども達は自然とコミュニケーション能力を身に付けることができます。外国人の先生方は明るく元気に子ども達に接してくれます。そして、日本人の先生方は礼儀を重んじ、子ども達や保護者の気持ちに寄り添いながら生活の自立に向けてきめ細やかに指導してくださいます。娘は担任の先生が大好きです。入園当初は不安や心配なことが多くありましたが、娘に愛情を注いで下さる先生方のお陰で毎日元気に登園しています。この素晴らしい環境の中で逞しく成長していく娘の未来が今からとても楽しみです。

布川あいかちゃんとお母さん



最初のキッカケは、妊娠中の運動で散歩していた時のことです。園庭から大きな声で「こんにちは!」と私にあいさつしてくれる園児、でも外国人の先生の号令では「YES!!」と返事をしています。散歩中でしたが、外国人の先生とのやりとりに耳を傾け、まだ幼稚園生なのに英語で受け答えしている姿にとても驚きました。自らあいさつする姿、英語でのやりとりに惹かれ入園を決めました。日常的に英語に触れているお陰で、教えていない英単語がどんどん出てきて、何より外国人の先生と会話している姿をみると成長を感じます。これからも園生活を楽しみ、沢山のことを吸収して欲しいと思います。



鈴木あやとくんとお母さん

日々グローバル化が進んでいく中で、英語を学ぶ必要性を感じていました。子どもには身構えることなく、生活の中で英語を自然に身に付けてほしいとの思いから入園を決めました。サニーサイドはネイティブな英語に触れられるだけでなく、日本人としての育ちや日本の文化に触れる体験なども充実しており、魅力ある幼稚園です。先生方はとても温かく、子ども達の性格などもしっかりと理解し、どんな時も丁寧に対応して下さいますので、シャイな息子も毎日が楽しく幼稚園が大好きです。卒業した三人の兄弟は、英語耳がとて育っていると感じます。英語の授業では外国人の先生とのコミュニケーションも積極的に図っているようです。サニーサイドで培われた英語力や自立心、思いやりの心をこれからも大切に四人が大きく成長してくれることを願っています。

蓮せいたくんとお父さん・お母さん



息子が生まれる前、夫と一緒にいった海外旅行。入園審査で何度「sight seeing」と言っても審査官に伝わらず、恥ずかしい思いをしました。生まれる子供には同じ思いをさせたくない! 国際的な環境で視野を広げて欲しい。その思いでサニーサイドに入園を決めました。いざ入園したある時、息子が「right, left」とネイティブな発音を使って話し、私が聞いたのを今だに覚えています。外国語と日本語の先生方がそれぞれの言語で子供達を支え、その中で自然と「英語耳」を身に付けられていると感じました。そういった日々の環境に加え、先生もめめた全力投球の行事、そこで学んだ「あきらめない心」や「誰かを思いやる心」、そういった「やしおの心」を学び得る事ができました。幼少期の大切な3年間、サニーサイドで過ごす事ができて本当に心から良かったと思います。

未就園児教室
サニーサイド
ピッコリクラス

平日の朝から他のお友達と一緒に遊ぶ中で、幼稚園に上がってからもよりスムーズなスタートを切ることが出来ます。

幼稚園入園を控えられた2歳児のお子様を対象に、週一度のクラスを開催しています。サニーサイドインターナショナル YASHIO幼稚園同様、日本人教師と外国人講師によるチーム保育形式で行なっております。クラスは定員制とし、一人一人と十分なコミュニケーションがとれるよう配慮しています。

火・木・金曜日
各クラス 10:00-11:30
☆ クラスの空状況等詳細は、幼稚園までお問い合わせ下さい。



After School Class

課外レッスン ● 英語教室

外国人講師による少人数制の英語教室を行なっております。幼稚園生にはもちろん、小学生を対象としたクラスも行なっています。また、サニーサイドの卒業生には、週2回コースも開設し、備わった英語力をさらに伸ばすことが出来るよう対応しております。

☆ 開設日・時間等、詳細は幼稚園までお問い合わせ下さい。



サニーサイドに入ると英語がペラペラになる・・・???



岐阜市のサニーサイドインターナショナル幼稚園（現・サニーサイドインターナショナルスクール）に最初のサニーサイドクラスが出来て以来、この園に通わせる保護者の方の思いには色々なものがあることに気づきます。

サニーサイドはもともと普段の生活を外国人の先生と過ごすというごく自然な「生活環境」ですが、中には「まだまだ英語の量が足りないから増やしてほしい」という方や、「私はもともと英語が話せるようになることをそんなに重要視していないから、そんな英語ばかり強調しないでほしい」という意見、実に様々です。

そして私たちは、色々な願いや期待を持つ保護者の方の思いと、現場で触れ合う子どもたちの姿を見つめながら、「この子どもたちにとって大切なことって何だろう」それだけを考えながら保育をしています。

サニーサイドと言えば、確かに「英語教育」というイメージがあると思いますが、本来は「英語環境」であって「英語教育」ではないなと感じています。そして、幼児期の子どもたちにとって、「環境」というものがどの位重要な意味を持つか、私たちはそれを日々目の当たりにしています。

小さな子どもと私たち大人の決定的な違いと言えば、「新しい環境への適応能力」であり、様々な情報や知識の「吸収力」であります。つまり、[英語教育]は子どもたちに必要ではありません。[英語環境]さえあれば、子どもたちは見る見るうちに理解力を身に付けていきます。

しかも、当然のことながら、小さな子どもたちの場合、意味を理解するプロセスは「言葉の翻訳」を介しません。当然初めは言われていることもわからないかも知れませんが、毎日生活の中で英語を聞いていると、朝の会の時に「Let's sing a song!」と聞けば、歌を歌うのだと理解しますし、給食の前に「Go wash your hands」と聞けば、手を洗いにいくのだと理解できるようになります。生活の中で行動を伴いながら耳にするので、あえて言うなら「意味がわからなくても意味がわかる」ということです。

そしてこの能力こそ、生後から幼児期にかけて子どもがもっとも得意とすることであり、どの子にもある力なのです。

実は、日本語もこうして子どもたちは覚えていくのですね。「生活の中で自然に身につく」…これが言語です。

また、英語の発音の周波数の帯域は、日本語と違うと言われています。小さい頃から英語を聞きなれていないと、絶対音感同様、大人になっても自然と耳から入ってきません。これは「耳の壁」と言われることもあります。大きくなるにつれて、それが出来てしまうと、何か英語の音が耳から入ることに違和感があるというか、あまり心地よく感じなくなります。そして、大人になってから、それを取り除こうとしても容易にそれが出来ない、そういうものだとされています。

ところが、サニーサイドの子どもたちは、年少の時から毎日英語を聞いていますので、英語が耳から入ることに違和感を感じていません。外国人に囲まれていたとしても、耳から入ってくる音はまったく苦にならないのです。

「毎日」というのは本当に見過ごせません。小学校1年生で、たとえ知能が優秀で英語が大好きだという子どもがいても、もしその子が幼児期に英語を聞く環境にいなかったとしたら、実際、サニーサイドの子どもと同じ英語の理解力を身に付けるのは相当な時間と努力が必要になってきます。毎日の積み重ねで築いたもののごさとはそういうものです。

「サニーサイドに入れたら、卒業する頃までには英語がペラペラに話せるのか」とたまに聞かれることがあります。もちろん子どもによってそれはまちまちで、限りなくバイリンガルになる子もいますし、ほとんど話そうとしない子どももいます。平均的な場合で言えば…「ペラペラ」ではないです。おそらく普段友達同士や、家族に対して話す言葉はほぼ100パーセント日本語でしょう。

でも、これは本当にどちらでもいいことだと考えています。つまり、話せる子は、たまたま非常に応用力に長けていたり、家で話す練習をそれとなくしていたりする場合があります。普通の家と比べれば、ほとんど日本語だけです。園で遊ぶ友達だって日本人ばかりなので、子どもだって、ただコミュニケーションをとるのに便利な日本語の方を使っているだけなのです。

それでは英語を話す力は身に付いていないのかと疑われるなら、英語を話す外国人の子どもの中で5日間生活させてみてください。「実はこんな力を秘めていたのか!」と驚かれることでしょう。

聞くことを「Input」話すことを「Output」と言いますが、人間が言葉を使えるようになるプロセスは産まれたときから常に「Input」が先です。赤ちゃんですら、生まれてから1年半以上「Input」を続け、その後やっと「Output」が出てくるのです。聞いたことを話せるようになるのであり、聞いたことがないものを話せるようになるわけがありません。

私たち大人が受けてきた英語教育の最大の間違いは、その最初の段階である「Input」がないまま、いきなり読み書きをさせられたことです。日本人が英語を話すことが苦手なのはそれに尽きると言えるでしょう。

その点、サニーサイドの子どもたちは十分に「Input」のプロセスを経験しています。環境さえ整えば、また時期がくればいつでも話せるようになるのです。そしてそこで重要なのは、「Input」のプロセスを途中で中断しないこと。小学校へ上がったらたとえ週1回でもいいでしょう、言葉が出てくるまで「Input」し続けることが大切です。

サニーサイドインターナショナルスクール（岐阜）
渡辺 寿之

